（第3種郵便物認可）　2020年(令和2年)3月12日（木曜日）　信濃毎日新聞

コンゴ民主共和国

エボラ熱 長い闘い

世界で新型コロナウイルスの感染が深刻化する中、アフリカ中部・コンゴ民主共和国では、致死率の高い感染症「エボラ出血熱」の流行が1年半以上に及び、世界保健機関（WHO）が国際的な対策強化を求めている。最多の感染者が出ているコンゴ東部ベニでは、日本などの医療関係者らが終息に向けて懸命な活動を続けていた。（コンゴ民主共和国東部ベニ　木村達矢、写真も）

■致死率66%

ベッドの周囲を透明なシートで覆った「キューブ」と呼ばれる隔離部屋が8室並ぶ。ベニ市街の一角に臨時開設された「エボラ治療センター」では、コンゴ保健省と「国境なき医師団」の医師や看護師らがせわしなく動き回っていた。患者との濃厚接触を避けるため、医療者はシートの外側から腕を入れて治療できる。

コンゴでエボラが流行するのは10度目だが、ベニなど東部では今回が初めてだ。2018年8月の流行宣言以降、疑い例を含む患者数は国全体で3444人に上り、2264人が死亡した。致死率は約66%だ。WHOは19年7月、「国際的な公衆衛生上の緊急事態」を宣言し、ウイルスの封じ込めなどを各国に求めた。

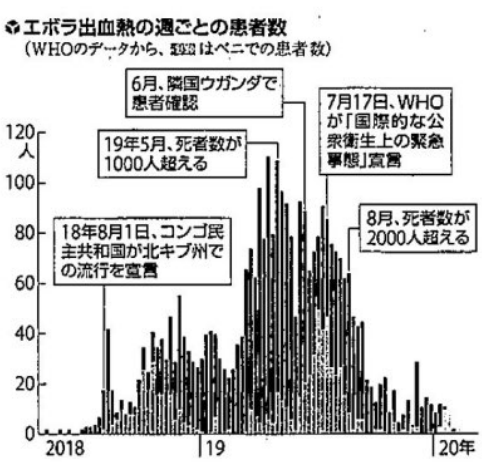
国内最多の730人の感染者を出したベニでは2月17日以降、新たな感染報告はない。だが、患者が病院に足を運ばず、知らぬ間に感染が広がっている可能性は否定できないという。

国境なき医師団で医療チーム責任者を務める看護師の魚内瞳さん(42)は、14～16年の西アフリカ大流行の際にシエラレオネで活動しており、最前線でのエボラ対応は2度目だ。「流行が終息するとはまだ言い切れない。サーベイランス（調査監視）を引き続きしっかりやる必要がある」と訴える。

流行の長期化は、医療関係者の心身にも重くのしかかる。治療は、厳重な防護服を着るなど緊張を伴う。医師らが感染したケースもあるという。保健省の疾病対策部門責任者ジョン・コンベ・ヌグワマさん(39)は「疲労はたまっているが、我々は終息まで治療を続けなければならない」と力を込めた。

エボラ出血熱の患者を隔離する「キューブ」（左）。シートから腕を挿入でき、中に入らなくても治療などを行える

医師ら「終息まで治療続ける」



エボラ出血熱　1976年にアフリカ中部で見つかったウイルス性感染症。血液などの体液に接触して感染し、多くは嘔吐（おうと）や下痢がひどくなり、多臓器不全や全身からの出血を起こす。過去の流行時の致死率は50～90%。2014～16年に西アフリカで大流行した際にはギニア、シエラレオネ、リベリアの3か国で計約1万1000人が死亡した。

エボラ出血熱が発生したコンゴ民主共和国の主な流行地

生存者 復職拒否の差別

■院内感染か

エボラの流行は、最初に確認された1976年以降、アフリカ中部を中心に30回以上発生した。

これまでは症状を抑える対症療法が中心だった。今回は、ウイルスの増殖を抑える新薬や、感染を抑止するワクチンが治療や予防法として使われている。

治療で回復した「サバイバー（生存者）」は1100人以上を数え、発症者の3割の命が救われた。ワクチンは約30万人に投与された。

サバイバーのジェルマン・ビル・カルベンギさん(24)は18年11月、バイクの事故で入院した病院で感染が判明した。他の患者や医師の中に感染者がいることが後日分かり、院内感染の疑いがあるという。

エボラ治療センターに転送されたカルベンギさんは数日間、キューブの中で寝かされ、治療薬の投与を受けた。意識がもうろうとする中、付近のキューブから聞こえていた叫び声や泣き声がしばらくするとやんだことは覚えている。「ああ、死んだな。次は自分の番か」と恐怖が募ったという。

治療が功を奏し、約1か月後に退院した。だが、勤務先だったホテルには復職を断られた。近所の人からも付き合いを拒まれている。現在は、WHOの紹介で、感染が疑われる患者を搬送する救急車の運転手として働くが、流行が終息すれば、失業する。カルベンギさんは「サバイバーが差別されず社会で受け入れられるようになってほしい」と語った。

■治安悪化が壁

流行が長期化する背景には、反政府武装勢力「民主同盟軍」（ADF）などのテロによる治安悪化で、医療チームの活動が脅かされている事情もある。

コンゴ東部では、豊富な地下資源の利権を巡り、多数の武装組織が暗躍している。ベニ周辺ではADFによる市民襲撃が多数発生し、昨年10月以降で400人以上が殺害された。農村部への移動がリスクとなり、医療活動が一時中断した時期もある。

地元リーダーの一人、オマル・カポタ弁護士(39)によると、地域経済や社会も動揺している。ベニでは、テロを恐れて農業や商業活動が衰退し、地元の人たちは感染を避けようと握手やハグもあまりしなくなったという。カポタ氏は「エボラが終息すれば、国際的な関心も薄れる。我々は、取り残されるのではないか」と危機感を募らせた。

治療薬・ワクチン「進歩あった」

国立生物医学研究所長

1976年の発見以来、エボラ出血熱対策の先頭に立ち続け、昨年、日本政府による野口英世アフリカ賞を受賞したコンゴ民主共和国立生物医学研究所長のジャンジャック・ムエンベタムフム博士(77)が、首都キンシャサでインタビューに応じ、今回の流行について「良い面と悪い面で、これまでとは全く異なっている」と指摘した。

博士は、過去には2～5か月で終息した流行が今回は1年半以上に及び、患者数、死者数ともにコンゴで過去最大の被害となっている点に懸念を示した。一方で、研究所やNGOなどの地道な啓発で住民の理解が進み、今ではワクチン接種を拒否する人はほぼいないと述べ、「順調にいけば、3月中にも終息宣言が出るのではないか」と期待した。

エボラ対策について語るムエンベタムフム博士

また、治療薬やワクチン、診断体制に「革新的な進歩があった」と評価した。研究所は、流行現場10か所に職員を派遣し、ウイルスの遺伝子配列を迅速に解析したという。

2月下旬には、日本の国際協力機構（JICA）の支援で高度な研究施設を開設しており、研究を一層充実させる考えを示した。

バンコク、各地に「副都心」

鉄道新線や延伸に1兆円
渋滞を軽減 総距離2倍

【バンコク＝村松洋兵】東南アジアの中核都市であるタイ・バンコクで鉄道網が急拡大している。無秩序ともいわれる都市開発や車の急増で交通渋滞が深刻になり、都市機能を分散するのが狙い。国内2大空港が結ばれるなど2023年までに新路線の開通が相次ぎ、総距離は現在の2倍となる。総事業費は1兆円にのぼり沿線開発も活発だ。高層住宅やオフィスビルからなる「副都心」が生まれ、従来のバンコクの街並みが変わりつつある。

今月1日、バンコクの西部と中心部をぐるりと回る初の環状線が開通した。主要駅の一つ「ターブラ駅」を訪れると、巨大な駅は2つのプラットホームが立体交差で十字に設計され、運行がスムーズに始まっていた。下のホームを出発した電車は約1時間かけてぐるりと郊外を1周し、上のホームに戻ってくる仕組みを取っている。

もともと、バンコクは街を南北にチャオプラヤ川が流れ、東西の行き来が面倒だった。だが環状線の誕生でそれが解消し、バンコク中心部から東部に広がるビジネス街と、チャオプラヤ川の西側の住宅街を電車1本で移動できるようになった。

バンコク北部にも鉄道網が大きく広がる。中でも19年12月に開業20年を迎えた高架鉄道「グリーンライン」が国立カセサート大学まで約3キロメートル延伸されたことは大きい。同大学は約6万人の学生が通うタイ最大級の大学。しかしこれまで公共交通機関はバスのみだった。学生から好評で、同路線は来年にはさらに延伸が計画される。

日本企業も支援

同じ北部では、バンスー駅を発着する高架鉄道「ダークレッドライン」（全長約26キロメートル）も、21年に新たに開業予定だ。これにより国内2大空港のスワンナプームとドンムアンは鉄道の乗り継ぎで結ばれ、プロジェクトには日本の官民が大きく関わる。住友商事、三菱重工業、日立製作所の企業連合が、事業主体のタイ国鉄から電気・機械システムと車両調達を受注。建設費約3300億円は国際協力機構（JICA）の円借款で大半が賄われる計画だ。

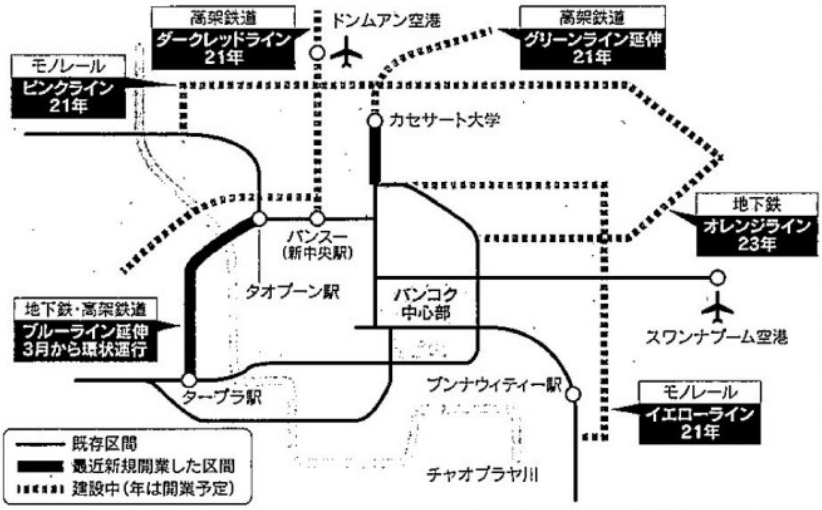
これらの計画で、バンコクを走る鉄道の総距離は23年に19年末の2倍の約300キロメートルと、東京の地下鉄の総距離にほぼ並ぶ。鉄道の充実は、活発な沿線開発を呼ぶ。都市機能が集中したバンコクでは今、郊外に「副都心」が生まれ始めた。

バンスー駅近くにある北部のタオプーン駅の沿線には新しい高層マンションが何棟も立ち並ぶ。駅の真横では阪急阪神不動産が地場大手のセナ・デベロップメントと建設する約740戸の大規模物件が完成間近だ。

昨年11月には、同駅近くでタイ大手財閥TCCグループが手掛ける大型商業施設も開業したばかり。近隣で食堂を営むアンポーンさんも「ここは、昔は普通の下町だったけど、ここ数年で町並みが大きく変わった」と感慨深げに話す。

バンコク南東部でも副都心化が進む。タイ最大財閥チャロン・ポカパン（CP）グループは昨年、プンナウィティー駅近くに約300億バーツ（約1000億円）を投じ、オフ

バンコクは中心部から郊外に鉄道網が広がってきた



今後の主なバンコク都市鉄道の新規路線計画

新規路線の名称	開業予定（年）	総距離（キロメートル）	総事業費（億円）
ダークレッドライン	2021	26	3,300
ピンクライン、イエローライン	2021	65	3,500
オレンジライン	2023	23	3,900

渋滞する道路の上を高架鉄道が運行する（2月、バンコク）＝小高郁撮影

Zoom インフラ

アジア主要都市の比較

比較項目	バンコク	東京	上海
都市鉄道の総距離（キロメートル）	140	760	674
地下鉄の総距離（キロメートル）	27	304	548
人口（万人）	830	927	1434
渋滞のひどさ（ワースト順位）	11	32	115

（注）国土交通省、日本地下鉄協会、国連、オランダ地図大手トムトムなどの調査を基に作成